

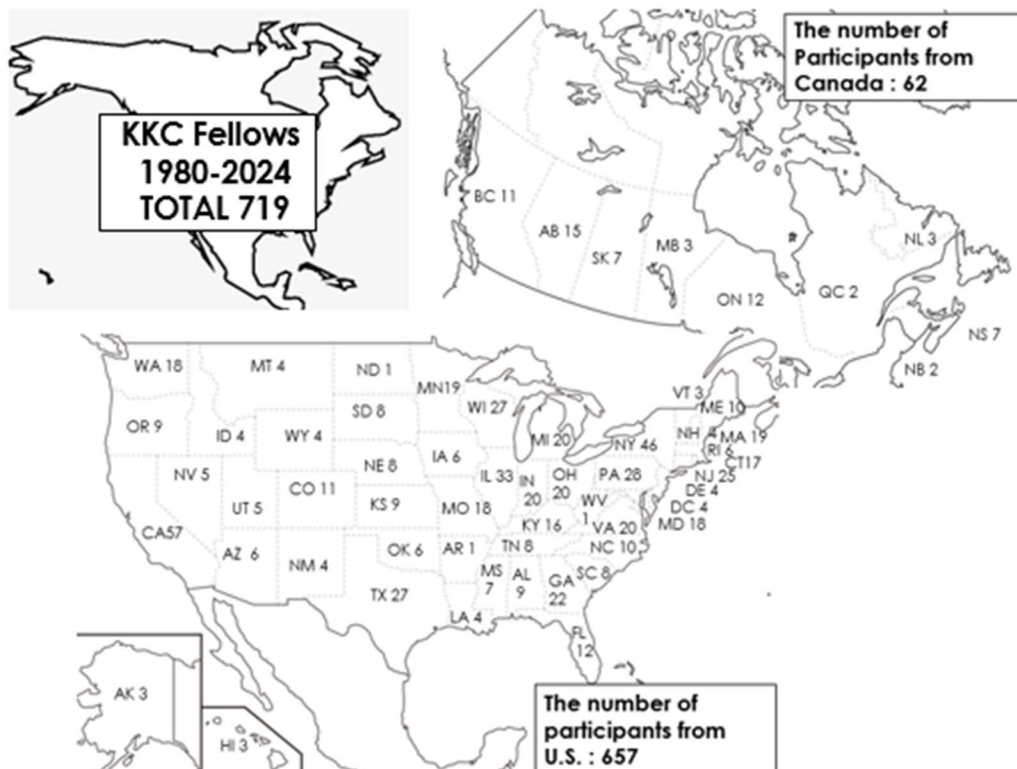
# 経済広報センター(KKC) 北米社会科教師招聘プログラム



一人の北米教師が日本への理解を深めれば、それは多くの子供たちにも共有される。このような観点から、経済広報センターでは、1980 年以降、北米の中学・高校の社会科教師を対象とした招聘事業を実施しています。

過去 44 年間で、「北米社会科教師招聘プログラム」の参加者は 700 名強になりました。彼らは北米の教育界で「KKCフェロー」と呼ばれ、北米の中高生の対日理解促進に向けた、様々な取り組みを実践しています。

＜北米 州別の参加者数 1980-2024 年＞



一般財団法人 経済広報センターは、経団連の関連組織です。  
1978年に設立され、経済界と国内外ステイクホルダーの対話の  
プラットフォームとして活動しています。

## 目次

ＫＫＣ北米社会科教師招聘プログラムは、 日本を理解する様々な機会を提供しています。	・ ・ P. 4
北米社会科教師招聘プログラム参加者（ＫＫＣフェロー）は、 日本で得た知見・経験を、積極的に活用しています。	・ ・ P. 7
北米の地域社会は、ＫＫＣ北米社会科教師招聘プログラム に期待しています。	・ ・ P. 11
ＫＫＣフェローは、日米の友情と相互理解促進の ネットワークを構築しています。	・ ・ P. 16

**K K C 北米社会科教師招聘プログラムは、  
日本を理解する様々な機会を提供しています。**

経済広報センターでは、全米日米協会連合（National Association of Japan-America Societies ; NAJAS）の協力を得て、招聘プログラムに参加する 10 名の中学・高校教師を選定しています。2017 年には、過去最高の 113 件の応募がありました。応募者は、このプログラムへの参加経験をどう授業に活かすのか、という点について、具体的な提案書を提出します。

選ばれた 10 名は、北米の学校が夏休みに入る 6 月下旬に来日し、9 日の日程で、日本の教師・中高生との交流、企業訪問、政治・経済・社会情勢等に関する識者との懇談、ホームステイなどを体験します。また、日米加の教育比較に関するシンポジウムなどにも参加します。

経済広報センターは、これら訪日プログラムの全てを企画・運営しています。

千葉県立長生高校（1980 年）



都立小石川高校（2012 年）



都立西高校（2015 年）



北鎌倉女子学園（2023 年）



三重県立四日市高校（2017 年）



都立小山台高校（2018 年）





福田康夫元内閣総理大臣（2019 年）



MS&AD ホールディングス柄澤康喜会長と（2023 年）



ソニー（2016 年）



KDDI（2019 年）



日産（2018 年）



三菱地所（2014 年）



築地市場（1984 年）



シンポジウム「分裂化する格差社会における教育のあり方と企業の役割」（2024 年）



広島平和記念公園（2013 年）



## 【最近の主な訪問先・面談相手】

- ＜教育関係＞ 山手学院中学校・高校（24年）、都立両国高校附属中学校（23-24年）、北鎌倉女子学園中学校高等学校（23年）、都立小石川中等教育学校（22年、12年、17年）、かえつ有明中学校・高校（22年）、都立竹早高校（19年）、京都学園高校（19年）、都立小山台高校（18年）、渋谷教育学園（18年）、日出学園（18年）、筑波大附属高校（16年）、聖ヨゼフ学園（16年）、目白研心中学・高校（16-17年）、京都市立西京高校（14-16年）、京都市立紫野高校（16年）、都立西高校（14-15年）、四日市高校（17年）、広島市立沼田高等学校（13年）、石巻市立住吉中学校（12年）、国立教育政策研究所（14、16年）、京都大学国際交流機構（15年）、JET 東京アラムナイ（15年）
- ＜企業＞ アステラス製薬（24年）、キッコーマン（24年）、TOPPAN ホールディングス（24年）、花王（23年）、セブン&アイ・ホールディングス（23年）、BIPROGY（23年）、MS&AD ホールディングス（23年）、キャノン（22年、24年）、京セラ（19年）、KDDI（22年、19年）、オムロン（19年）、Google（19年）、日本銀行（22年、19年）、MEGA WEB トヨタフィショウケース（19年）、森ビル DIGITAL ART MUSEUM チームラボ ボーダレス（19年）、日本生命（19年）、三井不動産（22年、18年）、伊勢半（18年）、第一生命（18年、24年）、清水建設（18年）、本田技研工業（鈴鹿工場、17年）、ソニー（22年、16年、17年）、ベネッセコーポレーション（17年）、J R 東日本（17年）、東京証券取引所（15年、17年、24年）、日産自動車（16年、18年）、サンリオ（16年）、三菱地所（15年）、東芝（東芝未来科学館、15年）、東レ経営研究所（15年、17年）、キャノン M J（村瀬会長、13-15年）、カプコン（15年）、トヨタ自動車（堤工場・産業技術記念館、14年）、マツダ（広島工場、13年）、オムロン（立石副会長、12年）
- ＜政府関係＞ 福田康夫元内閣総理大臣、鈴木馨祐衆議院議員、ケネディ元駐日米国大使、外務省、文部科学省、環境省、東京都、宮城県
- ＜識者＞ 慶應義塾大学赤林英夫教授、東京芸術大学高橋純教授、笹川平和財団渡辺恒雄上席フェロー、藤崎一郎元駐米大使、一橋大学山重慎二教授、慶應義塾大学白井さゆり教授、東京学芸大学高橋純教授、早稲田大学青山瑠妙教授、上智大学前嶋和弘教授
- ＜マスコミ＞ 日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、中国新聞、ウォールストリートジャーナル

北米社会科教師招聘プログラム参加者（KKCフェロー）は、  
日本で得た知見・経験を、積極的に活用しています。

招聘プログラム参加者からは、過去 10 年間に、約 100 の対日理解促進のための授業計画書（「ジャパン・LESSンプラン」）が経済広報センターに提出されました。加えて、この「ジャパン・LESSンプラン」実践の成果も、数多く寄せられています。

経済広報センターでは、「ジャパン・LESSンプラン」とその実践報告等をインターネットで公開するとともに、全米社会科協議会 (National Council for the Social Studies: NCSS) と協力し、その活用を促進しています。

（関連リンク <https://en.kkc.or.jp/programs/stj-2/>）

### <ジャパン・LESSンプラン例>

2015 年参加者 （ニューヨーク州 高校）

「The Impact of Japan's Declining Population on its Economy (人口減少の経済への影

Lesson 1: Introducing the Changing Demographics of Japan . .

Aim: How has the population of Japan changed in the past 60 years? . .

「戦後 1,600 万人を超えていた農業人口は、現在 200 万人。この 70 年で 1/8 まで減り、平均年齢は 66 歳を超えました。もはや、農政の大改革は、待ったなしであります」。

この安倍首相の発言によると、今日の日本の課題は何ですか？

1. 日本の人口構造は過去 65 年間で、どのように変化しましたか？

2. 人口構造の変化により、日本はどんな課題に直面すると思いますか？

Population pyramid

Year	Age Group	Population (Millions)
2007	0-14	13.5
	15-64	59.6
	65+	21.5
2050 (Projection)	0-14	8.6
	15-64	51.8
	65+	39.6

Ministry of Health, Labour and Welfare.

How has the population of Japan changed in the past 65 years? . .

Based on the information stated above, what challenges do you believe Japan will face? Explain . .



2012 年参加者 (インディアナ州 中学校)  
「Modern Life in Japan (現代日本の生活)」

1. あなたの見つけた日本のおもしろい点を説明しなさい。
2. 日本はアメリカと、どのような点で似ていますか？

Modern Life in Japan <sup>+</sup>				
Tami Hicks				
Identify the Need (What do students need to learn or be able to do?)	By the end of class, I will be able to compare basic similarities between the United States and Japan.			
	By the end of class, I will reflect in writing about something new or interesting that I learned about Japan.			
	Students will complete a KWL filling out the Know and Want to know individually and then will share with a partner to add to list for 1 minute.			
	Students will complete an Exit ticket with two questions with 5 minutes remaining at the end of the hour. The preplanned questions are:			
Apply (How will I know when students have mastered the objective?)	1.) Following the writing guidelines, explain something that you find interesting about the aspects of Japan. What specifically caught your attention and why? 2.) When compared to what we have learned about the USA, how is Japan similar?			
Evaluate (What will mastery look like?)	Low	Medium	High	
	1.) Student responses too general or vague when describing something new or interesting about Japan. Student is off topic and describes something we did not talk about or that is not about Japan. 2.) Does not state a similarity.	1.) Student responses have partially reflective responses. Student writes one thing but does not describe why it caught their attention. "The Bullet train was neat." 2.) Student identifies one similarity.	1.) Student response has at least one interesting aspect of Japan written and has support for how this aspect caught their attention. "The bullet train was interesting because it goes so fast across the country. I wonder why we do not have these in the USA." 2.) Student describes multiple similarities. Similarities are: Mass transportation, government	



高い達成度：

1. 少なくとも一つは挙げることができ、どのように関心を持ったか補足できる。(国内を駆け巡る新幹線、アメリカになぜないのか、等)
2. 複数の類似点を挙げることができる。(公共交通機関、官公庁の建物、国会、輸出依存、大企業、山脈、海岸、大都市、地震、火山、等)

### 【他の「ジャパン・レッスンプラン」例】

「平和主義：日本の憲法 9 条」、「気候変動と日本のエネルギー政策」、「広島への被爆体験について(目白研心高校との共同授業)」、「平安時代について」、「日本と封建時代」、「日本への旅」、「日本文化の課題」、「日本の神道と仏教について」、「日米間貿易・投資活動が米国民生活に与える効果・影響」、「デトロイトと東京の高層ビル建設理由」、「2020 東京五輪の経済見通し」、「現代日本の政治経済」、「3. 11 の悲劇、生まれた短歌」、「個人の投資活動」、「2001 年 9. 11 と 2011 年東日本大震災」、「日本の教育」



## <実践された「ジャパン・レッスンプラン」>

2015 年参加者 （ミシガン州 中学）

「Japan Museum Project(教室を日本に関する博物館にしよう)」



2016 年参加者

（バージニア州 中学）

広島原爆体験に関する絵本を題材に  
ツアーで訪問した高校とビデオメッセージを  
交換し交流



2015 年参加者

（カリフォルニア州 高校）

「The USA' s Special Relationship  
with Japan(アメリカと日本の特別な  
関係)」



2014 年参加者 （テキサス州 高校）

「Understanding Urban Development by Traveling Through Tokyo  
(東京を旅して日本の都市開発を理解する)」



2013 年参加者 （ペンシルバニア州 中学）

「My Life in Tokyo and My Life in Pittsburgh（東京の暮らしとピッツバーグの暮らし）」



2011 年参加者 （テキサス州 高校）

「事業戦略とCSR」（招聘プログラム参加経験をヒントにした地元企業訪問）



過去参加者による全米社会科教育協議会（NCS S）年次総会（2015 年はルイジアナ州）での発表



「How Free are Japanese Women?  
（女性の活躍推進について）」



招聘プログラムに関する展示



北米の地域社会は、

KKC北米社会科教師招聘プログラムに期待しています。

招聘プログラム参加者の活動は、しばしば、地元の教育関係団体の会報や新聞等で報じられます。米国の地域社会は、子供たちの国際的な視野を広げる観点から、この招聘プログラムに期待しています

2022 年参加者（マサチューセッツ州） 訪日が決定したことを地元紙（Spencer New Leader）が報道

## Leicester teacher Everett awarded Fellowship to travel, study in Japan this summer



Courtesy photo

Leicester Middle School teacher Norman Everett is headed for Japan this summer.

BY KEVIN FLANDERS  
NEWS STAFF WRITER

LEICESTER — Educators often enjoy their summers resting with family after a hard-working school year, but the journey of learning will continue next month for one Leicester Middle School teacher long after the final bell rings.

LMS social studies teacher Norman Everett has been awarded a 2022 Keizai Koho Center Teacher Fellowship to travel and study in Japan. From June 19-29, fellows will have the opportunity to learn about the Japanese economy, various businesses, and contemporary Japanese society. Fellows will also participate in roundtable discussions with educators and get involved in several other activities during their stay in Japan.

"This is an excellent opportunity for me to improve my own teaching skills. I am excited for the opportunity to teach a class in Japan and interact with Japan's education professionals," Everett said. "I have taught about Japan in my classes, but I am really excited about the opportunity to visit the country and see how the Japanese people teach their own history."

Turn To **EVERETT**, page **A12**

2022 年

レスターのエヴェレット先生  
夏に実施される日本への招聘  
プログラムに選ばれる

学校の先生は長い1年が終了  
した後の夏休みには家族とゆ  
っくり休むことが一般的だ  
が、レスター中学校のエヴェ  
レット先生の学びの旅は最終  
日の授業のチャイムが鳴った  
後の夏休みまで続く...

### EVERETT

continued from page A1

Additional highlights of the fellowship include visits to Japanese schools, major companies, and industrial facilities. Moreover, sightseeing excursions are planned to allow the fellows to learn about Japanese culture and society.

For Everett, the trip to Japan is especially meaningful after COVID-19 caused a lengthy delay. He was initially selected for the fellowship in 2020, but the pandemic has prevented his travel to Japan until this summer.

"I participated in a virtual version

of the program in 2021. In one virtual meeting, we were able to talk with a former Japanese ambassador to the United States," Everett said.

After reapplying to the program this year, Everett was selected and can't wait to land on the other side of the International Date Line. Once there, he will join the other fellows in teaching a lesson at a Japanese school about World War I.

The experience will also greatly assist Everett in his instruction back in Leicester.

"It is exciting to finally get to travel to Japan after two years of COVID-19

related delays," Everett said. "It will be exciting to bring everything that I have experienced in this fellowship to the classroom for the 2022-23 school year."

The fellowship is sponsored by the Keizai Koho Center (KKC), an independent nonprofit organization. Established in 1978, the KKC has served as a platform for the Japanese business community to interact with key stakeholders inside and outside of Japan.

"I am very honored and thankful to the Keizai Koho Center for all of their work organizing this fellowship through all of the COVID-19 restrictions and delays," said Everett, who also won

the Bryan McSheffrey Teacher of the Year Award for 2022.

LMS leaders commend Everett for his commitment to education and providing the best opportunities for his students.

"Leicester Middle School is honored to have a teacher like Mr. Norman Everett. His dedication to students is second to none," said LMS Principal Christopher Fontaine. "As we continue to have a mindset of always improving, the valuable information and experience that Mr. Everett will gain will only continue to help push our schools in the right direction."

2015 年参加者（ミズーリ州） 社会科教育協議会の会報への執筆

## OPPORTUNITY IN JAPAN!

DEREK FRIELING

Each year, ten teachers are selected to travel to Japan to study business, education, and cultural aspects of the country. This past summer, I was one of the teachers fortunate to be selected by Keizai Koho for this excursion.

The experiences vary each year with different locations explored each year. Business visits this year included Toshiba and Canon, where I was interested to discover they produce much more than the computers and cameras that they are known for. The education system in Japan places high pressure on students to perform well on the standardized placement test for college. If the high school students do poorly on the test, they are not allowed to enter the best colleges and therefore not able to pursue their career goals. Other attributes characterizing Japanese culture include minimizing the gender gap, preparing for the 2020 Olympic games, decreasing population, and international concerns with China and North Korea.

I would like to encourage you to take the opportunity to visit Japan yourself. Keizai Koho has applications available at <http://www.kkc.or.jp/english/fellowship/index.html>. All it requires is a letter of application, resume, lesson plan, and willingness to share your experiences when you return. It is an experience well worthwhile.



昨夏、「経済広報センター」

招聘事業参加者10名の1人に  
選ばれ、日本を訪問しました。

・・・企業訪問では東芝、キヤノンへ行きました。コンピューターやカメラで有名ですが、実際は遥かに多くのものを生み出していることが興味深かったです。・・・日本の教育制度や女性活躍推進、東京五輪2020、人口減少、中韓との関係といった日本文化の特徴も知りました。

皆さんにもぜひお奨めしたい体験です。

2004 年参加者（カナダ、ニューファンドランド・ラブラドール州） 教員協会の会報への執筆

ニューファンドランド島と日本、この2つの小さな島は共に、独特な文化や地理、対岸の大陸との関係等を持っています。互いの相違点は、共通の人間性を通して学び合うことで見えてきます。「経済広報センター」がその機会を与えてくれました。・・・この招聘プログラムは、日本の様々な団体の支援を得て実施されています。・・・今年で第25回目、参加者が帰国後に現在の日本について正しく伝えられるよう企画されています。・・・

日本の学生は屈託がなく、温厚でフレンドリーで礼儀正しく、そして欧米に関心が高いと感じました。・・・

知性と創造性が良心とつながったとき、人類は絶望の砂漠も徳のオアシスに変えられます。疑うのであれば、広島を訪れてみてください。

## Harmony, Innovation and Conscience The 2004 Keizai Koho Fellowship Tour of Japan

by KEITH SAMUELSON

Newfoundland and Japan. Two small islands with distinct cultural identities, forged by a unique geography and a tempestuous relationship with the colossal continents looming off our coasts. The differences between us are all too obvious; it is only through experiencing our common humanity that we can truly learn from one another. This past summer I was most honored as the Keizai Koho Center provided such an opportunity.



Receiving Fellowship certificate from Mr. Takashi Hayashi, Secretary General, Keizai Koho Center, Tokyo.

The Keizai Koho Center (KKC), also known as The Japan Institute for Social and Economic Affairs, is a private, non-profit organization which fosters better understanding of the goals and role of business in a democratic society. The KKC Tour is conducted in cooperation with the National Association of Japan-America Societies (NAJAS) in Washington, D.C., the Social Education Association of Australia and the Association for the Teaching of the Social Sciences in the United Kingdom. Its purpose is to help American, Australian, British and Canadian educators become better acquainted with contemporary Japan in the interests of global understanding. The tour operates with the assistance of an impressive array of partners from various sectors of Japanese society.

This year's program, which took place from June 28 to July 12, was the twenty-fifth in a series that has been offered every year since 1980. The two-week program aims to give educators whom the KKC considers to be opinion leaders in their respective communities firsthand contact with Japan that will help them accurately report on current conditions after returning to their home countries. Fifteen educators were selected as Keizai Koho Fellows for 2004: ten from the United States, two from Australia, two from the United Kingdom and one from Canada.

The program begins with lectures on Japan's economy, society and education system. Meetings, seminars, media interviews and question and answer sessions are scheduled with government officials, educators, business people and journalists. Fellows visit elementary and secondary schools, have discussions with educational authorities, teachers and students, meet with members of the KKC's Social Survey Network and tour major industrial, corporate, educational and cultural facilities in Tokyo, Hiroshima, Kyoto and Nagoya. They also stay in the homes of Japanese families in Tokyo for two days. After returning to their respective countries, fellows publish reports about their activities, experiences and impressions on the website of the National Association of Japan-America Societies at [www.japan.org](http://www.japan.org).

The KKC Fellowship Program enables educators to gain an understanding of current conditions in Japan through three inter-related perspectives - education, the economy and culture. To become more acclimated to Japanese culture, North American fellows met in Washington for an orientation before leaving for Tokyo. During this orientation fellows attended lectures on the KKC Fellowship Program and Japanese cultural considerations. We toured the "Japan Through the Eyes of a Child" exhibit for hands-on experience with Japanese-style rooms, subway platforms and "bullet train" schedules. There





## GAEE in Japan! President-Elect Walt Ellison

I never dreamed of meeting Caroline Kennedy. Yes, *that* Caroline Kennedy, the United States Ambassador to Japan. I by no means thought I would sit across the board room table from Haruo Murase, the Chairman of Marketing for Canon and talk about worldwide marketing strategies he is currently overseeing. These were just two of the highlights from my trip to Japan with the Keizai Koho Center (KKC) Fellowship Program this past summer.

The Keizai Koho Center, in cooperation with the National Association of Japan-America Societies, sponsors a 10-day fellowship to Japan every summer for 10 educators in the U.S. and Canada. The primary focus of the fellowship is to learn firsthand about contemporary Japanese society and enhance classroom teaching of global perspectives. The trip's 10-day itinerary primarily focused on Tokyo but also included a three-day trip to the beautiful temple-filled city of Kyoto. In addition to meetings with Ambassador Kennedy and Chairman Murase, our group met with several civic and education leaders from across Tokyo to discuss current economic, social and educational issues facing Japan.....continued on page 6.



キャロライン・ケネディに会えるなんて夢にも思いませんでした。そう、あの駐日大使のキャロライン・ケネディです。キャノンマーケティングジャパンの村瀬会長と同じテーブルで事業戦略を聞けるなんて、思ってもいませんでした。

「経済広報センター」招聘プログラムは、毎夏 10 名の教師に 10 日間のツアーを提供しています。現代の日本社会を実体験することによって、我々の授業が世界的な視野に立ったより価値あるものになります。東京と京都の旅を通して、今の日本の経済、社会、教育等について大使をはじめ各界のリーダーたちと懇談しました。・・・・・・

### GAEE in Japan (continued)...

Almost daily the topic of Japan's declining population and its looming economic impact was discussed. Estimations claim Japan's current population of approximately 127 million could fall below the 100 million mark by perhaps the year 2050. Experts argue the decline stems from years of economic stagnation which dampens future optimism combined with little immigration to offset the declining birthrate. This decline impacts practically every part of Japanese society: the labor market, tax revenue, forecasting in education, planning for future growth, etc.

Our visits to schools, specifically two high schools and a college, provided a snapshot of the Japanese educational system. While the Japanese approach varies from what I am accustomed to, I could tell the teachers and students genuinely enjoyed the classes I observed. Meetings with students proved just as enlightening despite the language barrier that eventually succumbed to pointing, motions and pictures on iPhones. The international language of music eventually took hold and we shared several enjoyable moments courtesy of Taylor Swift, Johnny Cash, The Beatles and The Eagles. For the record, you have not really heard *Desperado* until you have heard a Japanese high school girl sing it.

Our group also took in a Tokyo Giants baseball game, ate loads of authentic sushi, sang our fair share of Japanese style karaoke and built friendships that now stretch across the country and around the globe. The Japanese are a proud people who have found ways to adapt through the centuries. I will be forever grateful to the Keizai Koho Center for the chance to travel, learn and experience all this firsthand.



人口減とそれが及ぼす影響については、毎日のように話題になっています。およそ 1 億 2 千 7 百万の日本の人口が 2050 年に 1 億人を切るという予測もあります。・・・・・・

学校訪問では、日本の教育システムを垣間見ることができました。私の慣れ親しんだ方法とは違いますが、日本の先生と生徒は本当に授業を楽しんでいる様子でした。言葉の壁に負けて写真を見せたりスマホに頼ったりもしましたが、生徒との懇談は私を啓発してくれるものでした。・・・・・・

私たちは、共に東京ジャイアンツの野球を観戦したり、本場の寿司を食べたり、カラオケで歌ったりして、海を越えた友情を築きました。この旅と学びと本物の体験の機会をくれた「経済広報センター」に感謝しています。

KKCFellowは、

日米の友情と相互理解促進のネットワークを構築しています。

この招聘プログラム参加をきっかけに日本の高校との交換留学プログラムを立ち上げや、日本に関する教育事業に従事しているKKCFellowもいます。他にも、日本で出会った人たちと交流を続けたり、フェイスブックページや個人ブログ等で情報発信・交換を行ったりしています。

2012年参加者 招聘プログラムを契機に始まった日本の高校との交流  
(フロリダ州 セント・スティーヴン・エピスコパル高校ウェブサイト)

## Japanese students visit SSES

Peggy O'Connor, Contributing  
Writer/Media Specialist  
February 6, 2015

This week Saint Stephen's hosted nine of Japanese students from Shibuya High School in Tokyo, one of our sister schools in our Global Education program. They received a grant from the Japanese Ministry of Education for being a "Super Global High School" and used the grant money to visit Saint Stephen's for three days. The students are especially interested in issues of peace education and international cooperation. They delivered presentations to the 10th grade World History classes, the sixth grade, third grade and kindergarten in addition to speaking in chapel. This year they worked with Mr. Whelan's World History classes on a project relating to their school visit to Hiroshima.



Upon their arrival to the America on Sunday, the Japanese students were treated to a delightful welcome reception at Dr. Pullen's house. On Tuesday, they traveled to Saint Petersburg to visit the Holocaust Museum with their host families. Finally, they delivered a heartfelt appreciation of our hospitality before the start of Wednesday's Winter Season Varsity Awards and the National Letter of Intent signing day ceremonies. Thank you to everyone who made their stay a success.


### 日本の生徒たちが来校

今週、本校はグローバル教育プログラムにおける姉妹校の一つ、東京の渋谷教育学園渋谷高校から、9人の日本の生徒を迎えました。同校は日本の文部科学省からの「スーパーグローバル・ハイスクール」として奨学金を受け、3日間、本校を訪れました。彼らは平和教育と国際協力に特に関心があり、10年生の世界史、6年生、3年生、幼稚園のクラスでプレゼンテーションを実施しました。・・・



1981 年参加者 ワシントン大学で教員向け東アジア教育プログラムを立ち上げ

<https://jsis.washington.edu/eacenter/>




THE HENRY M. JACKSON  
SCHOOL OF INTERNATIONAL STUDIES  
UNIVERSITY of WASHINGTON

Search the Jackson School GO

Make a Difference. Make a Gift.

Home About Us People Undergraduate Graduate Resources Centers & Programs Alumni Events News



East Asia Resource Center

earc@uw.edu

- EARC Home
- About the EARC
- NCTA Seminars and Workshops
- Write About Asia: Saturdays at SAAM
- Other EARC Events
- Summer Seminars
- Teaching Resources
- Sign up for EARC Updates

## Welcome to the East Asia Resource Center

The East Asia Resource Center invites K-12 educators to explore the wealth of opportunities available to them to deepen their knowledge of East Asia.

K-12 teachers in all stages of their careers will find that the East Asia Resource Center (EARC) is a great place to learn more about China, Japan, and Korea. Year-round programming includes: the [National Consortium for Teaching about Asia \(NCTA\)](#) seminars; intensive [summer institutes in Seattle](#); and [other events](#) such as one-day workshops on East Asian art, culture, and history.

**East Asia Resource Center**

302 Thomson Hall  
Box 353650  
Seattle, WA 98195

☎ 206.543.1921  
📠 206.685.0668  
✉ [earc@uw.edu](mailto:earc@uw.edu)

東アジアリソースセンターは、幼稚園から12年生までの教育者に、東アジアに関する知識を深める機会を提供します。教員としてのキャリアのどの段階においても、当センター（EARC）は中国、日本、韓国について学ぶ絶好の場です。...

### Tokugawa Japan: Multiple Voices, Multiple Views

A summer institute for teachers of grades 3-8

Presented by Veteran K-12 Educators Patricia Burleson, Oralee Kramer and Mary Roberts



**July 13-17, 8:30 a.m. - 3:00 p.m.**

Work with colleagues to address State Standards as you learn about the period known as the 200 years of peace in Japan between 1603 and 1868, when shoguns ruled, foreigners were banned, cities and arts flourished and economic change undermined social hierarchies.

**Note:** The **priority application deadline** was April 10, 2015. This application is now closed.

**Keizai Koho Center**  
Japan Institute for Social and Economic Affairs